

中間報告書

令和 7 年 9 月 11 日現在

1 事業名 遊びの中で防災スキルと非認知能力を身につける。親子防災リーダープロジェクト

2 実施期間 令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 2 月 28 日

3 事業内容

① 事業の目的・概要

防災知識や災害発生時後に必要となるスキルについて、体験を通じて学んだ親子を増やし、災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立てる人を育成し、災害に対応しやすい地域をつくること。

② 事業の流れ・進捗状況等

<実施したこと>

- ・6月14日防災のプロに学ぶ万一の備え 防災士による防災ワークショップ
- ・8月5日 流しそうめん台づくりワークショップ
- ・8月6日 塩づくり体験ワークショップ
- ・上記日程 プレーパークでの自然遊び 3回

<今後、実施すること>

- ・プレーパーク会場の環境整備
- ・9月27日、28日小屋づくり体験ワークショップ
- ・10月11日 竹の遊具づくりワークショップ
- ・12月13日 野外調理&消化器の使い方
- ・1月24日 コンポストトイレづくりワークショップ
- ・2月 参加者交流会

③ これまでの成果・効果、今年度事業終了後の成果・効果の見込み

親子防災リーダープロジェクト上半期 参加者数			参加者		
番号	日程	内容	大人	子ども	スタッフ
1	6月14日	防災のプロに学ぶ万一の備え	6	14	5
		冒険遊び場プレーパーク	5	5	3
		合計	11	19	8
2	8月5日	流しそうめん台づくり	10	14	5
		冒険遊び場プレーパーク	5	4	3
		合計	15	18	8
3	8月6日	塩づくり体験ワークショップ	7	12	6
		冒険遊び場プレーパーク	2	3	3
		合計	9	15	9
6月から8月の合計			35	52	25

【成果】

6月から8月までに計3回のワークショップを開始、合計で大人35人、子ども52人の来場者を得た。各回とも、防災を意識するワークショップが行えており、アンケート結果からも子どもたちが楽しみながらワークショップに参加していることが窺える。また、子どもたちが興味関心を持つ内容が具体的に分かったことも成果の1つと考えられる。

参加者の中には、自然の中の子ども同士の自由な遊びの価値を感じており、そういった環境を望む声も上がっているため、市民のニーズと社会環境の変化を促すきっかけになっているとも考える。

・評価指標について

評価指標	評価方法	目標	中間
1. プレーパーク参加者数	延べ人数	1,000 360人	24人
2. ワークショップ参加者数	延べ人数	200 240人	63人
3. エディブルガーデンの造成	面積	1,500m ²	中止

プレーパーク参加者数、年間目標に対して大きく下回っており、イベントの認知や集客が予想以上に難しい状況があった。目標を高く設定しすぎてしまったように考える。

評価指標	評価方法	目標	件数
防災スキルの獲得段階、子どもの非認知能力育成に関わる生活習慣の変化、参加親子の防災意識の変化がわかる。	参加者アンケート、講座内での技術チェック	防災講座内での確認、プレーパークやワークショップ参加者から100件の回答を得る。	・プレーパーク7件 ・6月14日 4件 ・8月5日 5件 ・8月6日 6件 合計 21件

アンケートの回答は少しずつ集まっているが、まだ目標には届きにくい状況である。アンケート結果は、参加者からの評価は総じて良く防災意識の高まりが感じられている。

親子防災リーダーワークショップアンケートより 結果のまとめは後述

全体として「わかりやすかった」「関心が高まった」と答えた参加者が9割を超えており、防災意識の向上にしっかりとつながっていることが分かる。

感想から見えるニーズ

- 子どもが「楽しみながら学べる」ことは、保護者にとっても関心が高い。
- 保護者は「実践的な体験を通して、家族で共有できる学び」を望む傾向がある。
- 自然体験（竹や火・水）と防災教育を結びつけることで参加意欲がさらに高まる。

食や工作、防災行動の体験がバランスよく「やってよかった」と評価されており、特に竹を使ったものづくりと塩づくり体験が高い人気を集めていた。

プレーパーク参加者アンケート結果より

全体的に「自然の中で遊べる場所がもっとほしい」という声が強く、プレーパークが子どもの外遊び習慣や友達関係に良い影響を与えていたことが分かった。今回参加したご家族はプレーパークの経験のあるご家族が多く、まだ知らない人や初めて参加する人が利用する件数が少なかった。プレーパークを利用してから外遊びの時間が増えたという回答がほとんどで、子どもたちの非認知能力を養う習慣づくりにプレーパーク事業は寄与していると考えられる。

④ 課題等

- ・事後アンケートによる講座、ワークショップの評価をしているが、その後、日常生活の中での変化があったかどうかを確認できていない。またプレーパークの参加者は、以前から参加していた人が多く、全くの新規で来られた方がまだ少ない状況がある。告知や集客、人を呼ぶ仕組みに力を入れる必要がある。

4 参考事項・資料

収支精算書見込又は収支（変更）予算書※

（収支（変更）予算書※は補助金交付申請書または補助事業変更承認申請書に添付した

収支（変更）予算書のこと）

写真（データでも提出すること）

当日資料

アンケート結果 他

写真



防災親子リーダープロジェクト 参加アンケート ↵

■ (8月6日 海水からの塩づくりワークショップ) ↵

■ 【アンケート記入欄】 ↵

① 参加された方について（任意） ↵

お名前（ ） お子さまの学年・年齢（ ） お住まいの地域
() ↵

② 今日の講座について ↵

Q1. 今日の内容はわかりやすかったですか？ 当てはまる番号に○をしてください。 ↵

1. とてもわかりやすかった
 2. わかりやすかった
 3. ふつう
 4. 少しむずかしかった
 5. わからなかった
- ↵

Q2. 講座の中で「やってよかったです」と思った内容にチェックをしてください（いくつでも可） ↵

- 海水を羽釜で焚く
 - 塩分濃度を測って塩水を飲み比べる
 - 濃い海水を作って濾過する
 - 塩と体液の組成を学ぶ
 - 自分でつくった塩でおにぎりをする
 - その他（ ）
- ↵

③ 防災についての気持ちの変化 ↵

Q3. 今日の参加を通じて、防災への気持ちは変わりましたか？ ↵

1. とても関心が高まった
 2. 少し関心が高まった
 3. 変わらない
 4. よくわからない
- ↵

④ お子さんの様子について ↵

Q5. お子さんは今日の講座を楽しんでいましたか？ ↵

1. とても楽しんでいた
 2. 楽しんでいた
 3. あまり楽しんでいない
 4. 楽しんでいなかった
- ↵

⑤ ご意見・ご希望 ↵

Q7. 今後、どんな防災講座があったら参加したいですか？ご感想もあれば自由に教えてください。 ↵

プレーパーク 参加アンケート

本日はご協力ありがとうございます。これから活動づくりの参考にしますので、簡単なアンケートにご協力お願いいたします。当てはまるものにチェック、もしくは番号に丸をお願いします。

←

① お子さんとご家庭について

・お名前（ニックネーム）：

・お子さんの年齢：歳

・お住まいの地域（市区町村名など）：

② プレーパークの利用について

Q1. プレーパークに参加したことはありますか？

(1. 今日が初めて 2. これまでに何度か参加したことがある 3. よく参加している)

Q2. プレーパークのどんなところが良いと思いますか？当てはまるもの全てにチェックしてください

自然がある 自由に遊べる プレーリーダーがいる 火や水を使える 工具や遊び道具がある

その他・自由に教えてください→ ()

③ お子さんの生活習慣について

Q3. ゲーム・テレビ・スマホ・タブレットなど画面を見る時間は、1日どのくらいですか？

(1. ほとんどしない 2. 30分以内 3. 1時間くらい 4. 2時間くらい 5. 3時間以上)

Q4. 外で遊ぶ頻度はどのくらいですか？

(1. ほぼ毎日 2. 週に3~4日 3. 週に1~2日 4. 月に数回 5. ほとんど遊ばない)

Q5. 一緒に遊ぶ友達の人数はどのくらいですか？

(1. いつも一緒に遊ぶ友達が3人以上いる 2. 1~2人いる 3. あまりいない 4. ほとんど一人で遊ぶ)

④ プレーパークへのご意見

Q5. プレーパークのように、自然の中で遊べる場所がもっと増えたら良いと思いますか？

(1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらとも言えない 4. あまりそう思わない)

Q6. プレーパークに参加したことがある人に質問です。参加して外遊びの頻度が変わりましたか？

(1. 外遊びの回数が増えた 2. 変わらない 3. 外遊びの回数が減った)

Q7. プレーパークに関してご意見があれば自由に教えてください。

→

防災ワークショップ参加者アンケート結果

1. 調査概要

- 回答数：15 件
- 対象：防災親子リーダープロジェクト参加者
- 目的：参加満足度・防災意識の変化を把握し、今後の改善に活かす

2. 参加者の地域分布

- 岡山市：5 件
- 福山市：2 件
- 倉敷市：2 件
- 倉敷市（玉島）：2 件
- 倉敷市中島：1 件
- 玉島：1 件
- 久米南町：1 件
- 岡山市北区：1 件

倉敷市・岡山市を中心に、福山市や久米南町など広域からの参加が確認された

3. アンケート結果

(1) 内容の分かりやすさ

- とてもわかりやすかった：13 件（86.7%）
- わかりやすかった：1 件（6.7%）
- ふつう：1 件（6.7%）
- よくわからない：0 件（0%）

(2) 防災への気持ちの変化

- とても関心が高まった：8 件（53.3%）
- 少し関心が高まった：6 件（40.0%）
- よくわからない：1 件（6.7%）

(3) やってよかったです（複数回答）

- 海水を羽釜で焚く：6 件
- 竹で箸をつくる：5 件
- 竹で器をつくる：5 件
- そうめん流し台をつくる：5 件
- 塩分濃度を測って飲み比べる：5 件
- 家族で避難場所を決めるワーク：4 件
- 非常持ち出し袋の中身チェック：4 件
- 災害用トイレの使用実験：4 件
- ノコギリや小刀を使う：4 件
- ハザードマップの見方：3 件
- 防災ホイッスル体験：3 件
- 濃い海水を作って濾過する：3 件
- 塩と体液の組成を学ぶ：3 件
- 自分でつくった塩でおにぎり：1 件
- その他：2 件

(4) 今後希望する講座（自由記述）

- 火のおこし方、飲み水の作り方

- カセットコンロを使った調理、防災アウトドア
- 食べられる草と食べられない草の見分け方
- 無人島サバイバル体験
- とっさの行動（頭を守る、外出時の判断）

(5) 子どもの様子

- とても楽しんでいた／楽しんでいた → 全員（100%）

4. まとめ

- **評価**：9割近くが「わかりやすい」、9割以上が「関心が高まった」と回答
- **地域性**：倉敷市・岡山市を中心に、県外の福山市などからも参加あり
- **人気活動**：竹・塩づくり体験と、避難・持ち出し袋・トイレ実験など実用的防災学習の両立が高評価。
- **今後の方向性**：参加者の関心は「遊び×サバイバル型」へと広がっており、体験型防災教育の拡充が期待される

プレーパーク参加者アンケート まとめ

1. 調査概要

- 対象：プレーパーク参加者（保護者・子ども）
 - 回答数：7件
 - 実施方法：アンケート記入（オンライン／会場）
 - 目的：参加者の満足度、利用実態、今後の改善点を把握し、継続的な運営や発展につなげる
-

2. 参加者属性

・居住地域

- 岡山市：4件
 - 倉敷市玉島：1件
 - 倉敷市：1件
 - 広島県福山市：1件
-

3. アンケート結果

(1) 参加経験

- よく参加している：4件（57.1%）
 - 今日が初めて：2件（28.6%）
 - これまでに何度か参加：1件（14.3%）
-

(2) 良いと思うところ（複数回答）

- 自然がある：7件（21.2%）
 - 自由に遊べる：7件（21.2%）
 - プレーリーダーがいる：6件（18.2%）
 - 火や水を使える：6件（18.2%）
 - 工具や遊び道具がある：6件（18.2%）
 - その他：1件（3.0%）
-

(3) 生活習慣に関する質問

・スクリーンタイム

- 1時間くらい：3件（42.9%）
- ほとんどしない：2件（28.6%）
- 2時間：1件（14.3%）
- 3時間以上：1件（14.3%）

・外遊び頻度

- 週に3～4日：4件（57.1%）
 - ほぼ毎日：2件（28.6%）
 - 週に1～2日：1件（14.3%）
-

(4) 友達との関わり

- 1～2人いる：3件（42.9%）
 - あまりいない：3件（42.9%）
 - 3人以上いる：1件（14.3%）
-

(5) プレーパークの効果

- 自然の中で遊べる場所がもっと増えたら良い：100% が「とてもそう思う」
- 外遊びの回数が増えた：4件（80%）

- 変わらない：1件（20%）

4. 自由記述から見える声

- 「これからも長く続けてほしい」
- 「プレーリーダーがもっと増えるといい」
- 「自然の中でのびのび遊べるのがありがたい」

5. まとめと今後の展望

- 評価：自然の中で自由に遊べる環境が強く支持され、参加者の外遊び習慣や子どもの成長に寄与していると考えられる。
- 展望：地域住民・保護者・NPOなどの協力を得ながら、「持続可能なプレーパークの運営モデル」を構築していくことが必要である。

5 次年度以後の事業展開

次年度の事業 展開	事業展開の方向性 (以下のチェック欄のいずれかに「✓」を記入してください。)
	<input type="checkbox"/> 提案団体の自主事業として収益を得て継続・拡大していくことを目指す。
	<input checked="" type="checkbox"/> 地域づくり事業として事業を継続しつつ、次々年度の自主事業化へ備える。
	<input type="checkbox"/> その他（ ）
中期的な目標を実現させるための具体的な事業の内容 新規事業で認知が得られていないためか予想よりも集客に手こずっている。地域の育児情報誌にての情報配信や、講座の内容に興味のある団体などとより深く連携、講師に有名人を招くなど、インパクトのある事業設計が必要だと考える。	